

■ 目的 1 メンテナンス産業の活性化（メンテナンス技術の分野での生産性革命）

①オープン・イノベーションの導入、②公認フォーラム制度等の導入、③海外展開

■ 目的 2 メンテナンスの理念の普及

④インフラメンテナンス大賞（仮称）の創設、⑤技術コンペ・コンテストの実施、⑥国民へのメンテナンスの理念の普及

■ 目的 3 メンテナンスへの市民参画の推進

⑦メンテナンスへの市民参画

メンテナンス産業の活性化

戦略1 インフラメンテナンスの生産性革命（オープン・イノベーションの導入・推進）

○オープン・イノベーションとは
「自社のみでは解決できない研究開発上の課題に対して、既存のネットワークを超えて最適な解決策を探し出し、それを自社の技術として取り込むことによって、課題を解決」（「社外の技術でビジネスをつくる実践ステップ オープンイノベーションの教科書」星野達也著）

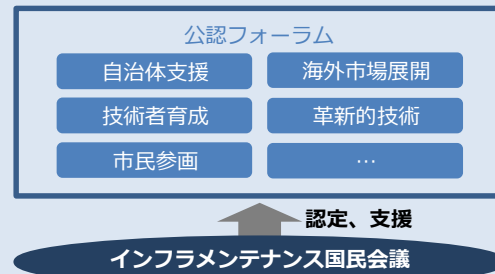
国民会議がオープン・イノベーションを行う場を提供し、活動に伴走しながら企業の取組を支援。必要に応じ、資金調達も支援。

地方での開催もあわせて検討

戦略2 ビジネスチャンスの創出（公認フォーラム制度導入）

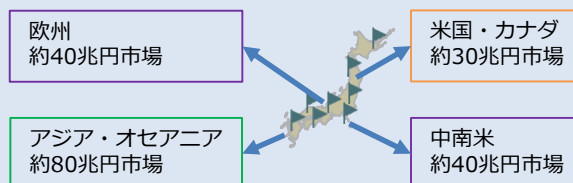
自主的な勉強会・交流会（フォーラム）を国民会議が認定、支援

○公認フォーラムの概要
・発起人（リーダー）がフォーラムを発案
・国民会議がフォーラムの運営を支援（専門家派遣、メンター）



戦略3 200兆円巨大海外市場への挑戦（海外展開）

・メンテナンス技術を世界に発信
・国際規格（ISO等）の認証取得推進
・有望な市場での二国間会議の活用等
・関係機関による連携支援



メンテナンスの理念の普及

戦略4 メンテナンスのメジャー化（表彰制度の創設）

○インフラメンテナンス大賞の創設
・表彰対象：インフラメンテナンスにかかる特に優れた取組・技術開発
・表彰の種類：内閣総理大臣賞(未調整)、国土交通大臣賞等

戦略5 メンテナンス技術の限界突破（技術コンペ・コンテストの実施）

○技術の性能等を競うコンペや新たなアイデアを求めるコンテストを実施（技術コンペ・コンテストの流れ）
①テーマを公募で決定②参加者を募集③実証審査
（例）5時間、250km飛行するドローン



戦略6 国民へのメンテナンスの理念の普及（インフラメンテナンス大使／マニアの設置等）

○著名人に情報発信して頂く「インフラメンテナンス大使／マニア」や HPやSNS等による幅広い情報発信

メンテナンスへの市民参画の推進

戦略7 メンテナンスへの市民参画

○公認フォーラムにおいて市民参画のあり方や推進方策を検討
・市民活動や技術者育成に取り組む民間団体と交流・連携
・地方大学等で養成されているメンテナンス技術者との連携